

社説

時代の変化に応じた役割を

公衆電話

公衆電話は、長年にわたって国民生活を支えてきた重要な通信インフラだ。最低限の機能を維持しつつ、災害時など時代の変化に応じた役割を強化したい。

総務省の有識者会議が、NTT東日本と西日本に義務づけている公衆電話の設置基準を緩和する報告書をまとめた。携帯電話の急速な普及や人口減少で、利用が激減しているためだ。

公衆電話は現在、市街地で約500台四方、他の地域は約1台四方に、それぞれ1台設置するという義務づけられている。この「第1種」は11万台の水準を維持してきたが赤字が続き、効率化が課題となっている。

有識者会議は、1種の設置基準を市街地で約1台四方、その他は約2台四方にそれぞれ1台とするよう提言した。この基準だと設置台数は、現在の4分の1の約2万7000台まで減るといふ。駅や公共施設などにNTT東西

が独自に設置する「第2種」も、2002年度末には50万台近くあったが、需要が減り、現在は約4万台まで減った。

今後は、設置場所の周知を徹底させることが必要だ。地図アプリや自治体が配布する地図などへの掲載も検討すべきだろう。利用者も、自宅や勤務先の周辺など、行動範囲のどこに公衆電話があるのか確認しておきたい。

災害時の通信手段としての公衆電話の重要性は変わらない。固定電話や携帯電話は災害時、つながりにくくなることが多い。携帯電話は電池切れの心配もつきまとう。公衆電話は災害時につながらやすく、電池切れの心配がないという強みがある。

東日本大震災が発生した11年3月11日の公衆電話の利用数は、東日本全域で前日より約10倍増え、首都圏は15倍に達したという。公衆電話になじみが薄い若年層へも、使い方を周知してもらいたい。

(2021年4月18日 読売新聞朝刊より)

1 公衆電話の「時代の変化に応じた役割」とは何ですか。記事の中から8文字で抜き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 記事では、東日本大震災が発生した日の公衆電話の利用数が紹介されています。利用数を書いたのは何を示すためですか。最も適切なものを選び、番号で答えましょう。

- ① 公衆電話が東日本にたくさん設置されていることを示すため。
- ② 通話料が安い公衆電話は、災害時も普段と変わらず人気があることを示すため。
- ③ 被災地には高齢者が多いので、公衆電話の使い方を知る人が多かったことを示すため。
- ④ 災害時は、公衆電話を使う人が急増することを示すため。

--

3 記事は、今後は公衆電話の設置場所を周知したり、確認したりすることが重要だと記しています。なぜ、これまで以上に設置場所を知っておくことが大切になるのですか。文章全体をよく読み、「公衆電話は」という書き出しから、記事中の言葉を使って40字以上50字以内で書きましょう。

公	衆	電	話	は															